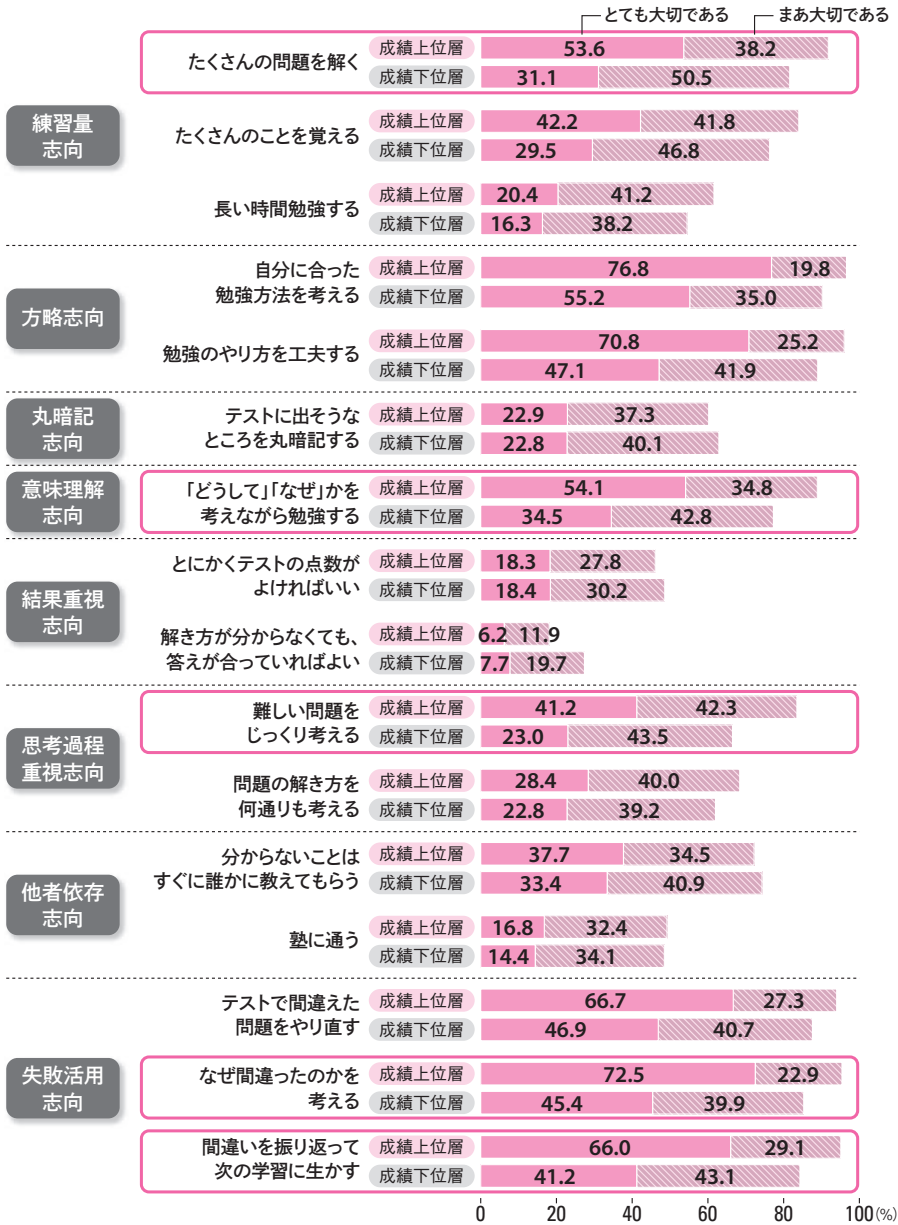


学力層によって異なる学習への意識

ベネッセ教育総合研究所が実施した調査を基に、成績上位層と成績下位層とでは、学習に対する意識(学習観)が、どのような点で大きく異なるかを見てみよう。

図 成績上位層ほど、振り返りを重視

Q.勉強について、次のようなことはどれくらい大切だと思いますか? (中学1・2年生)



注) 学習観に関する分類は、東京大学の市川伸一研究室で開発された尺度を参考にしているが、「環境設定志向」にあたるものは内容・名称を変更して「他者依存志向」とした。また、それぞれの志向の質問項目は、ベネッセ教育総合研究所で作成したものである

出典/ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」(2014年2~3月実施。全国の小学4年生~中学2年生の子どもとその保護者。親子で各5,409人。うち中学生の有効回答数は1,959人)

成績上位層と成績下位層で、学習に対する意識の差が10ポイント以上あったのは、差が大きい順に「難しい問題をじっくり考える」「『どうして』『なぜ』かを考えながら勉強する」「間違いを振り返って次の学習に生かす」「たくさん問題を解く」「なぜ間違ったのかを考える」であった。

演習段階では、難しい問題にもしっかり取り組み、その解答が間違っていた場合は、答え合わせの時になぜ間違えたのかをきちんと振り返り、次に同じ間違いをしないようにすることが、学力に影響していると言えそうだ。